

No 1



■21世紀サダコストーリー



- ある日、
わたしは平和記念公園の
「原爆の子の像」の前に立っていた。
- その日、
原爆の子の像がつくられたわけを
はじめて知った。
- 佐々木禎子さんという、
12さいの少女が
白血病で亡くなったことを知ったのも、
その時だった。
- 昭和30（1955）年、
今からおよそ70年も前のことだ。

No 3



■ほほに、ポツッと何かが落ちてきた。

No 4



■像の頂上の折りづるが、
太陽の光にキラッと光った。

■「おいでよ、サダコ」

■声が聞こえた。
あたりを見まわしたけど、だれもいない。



■「ほら、リレーの練習がはじまっちゃうよ」

■今度は、もっとはっきりと聞こえた。

◆サダコちゃんはやく！

■後ろから、聞こえた声は、
同じクラスのみほちゃんだ。

■でも、サダコちゃんて、だれ？



■わたしはふりむいた。

■ふりむいたら、
そこはわたしが通っている小学校の運動場だ。
クラスみんながリレーの練習をしている。

■そうだ、運動会は1週間先だった。

◆サダコちゃん、はやくアンカーの
場所に行ってよ！

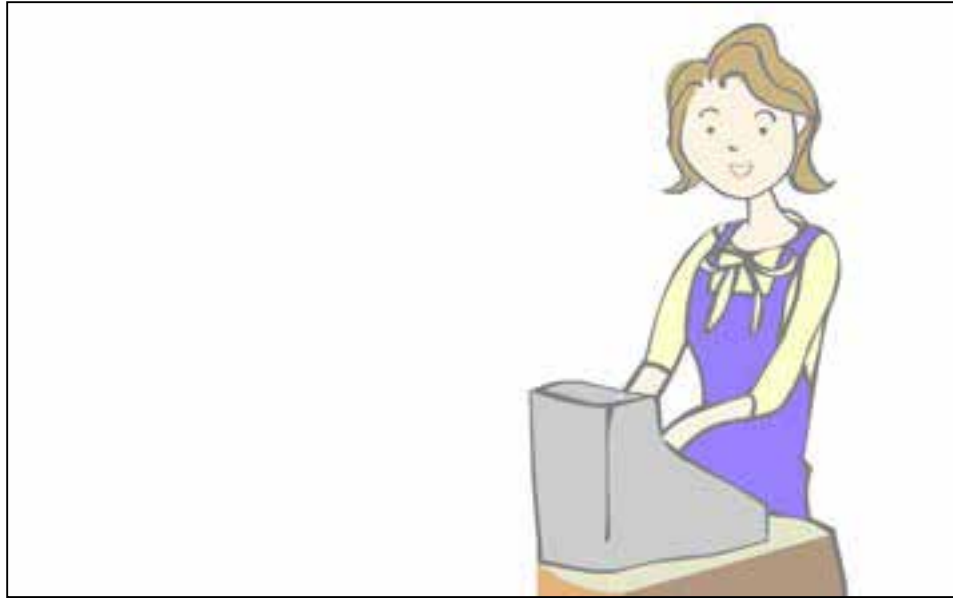
No 7



■わたしの毎日はずっとおんなじだ。

■みんながわたしのことを
「サダコ」とか「佐々木さん」と呼ぶ以外、
何も変わってはいなかった。

No 8



◆お帰り、サダコ



◆サダちゃん、
リレーのアンカーに選ばれたんだって。

◆サダちゃんは
走るのがはやいもんな。

◆動いちゃダメ。あぶないよ

■どうしたんだろう、みんな。

■どうして「サダコ」って
呼ぶんだろう。



◆サダコ、
首のリンパ節ははれてるね

■ちょっと だるいみたい。

◆お母さん、
明日になっても はれがひかないようなら
病院に連れてってやろう。
店も休みだし

◆さうしようね サダコ



◆リンパ節がはれている間は
あんまり
運動しない方がいいですよ

■でも、
リレーの練習をしなくちゃ。
みんなで
毎日練習しようって約束したんです

◆しかたない子ねえ。
からだがだるいといいながら
リレーの練習は休まないんだから



◆先生、
あの子は何の病気なんでしょうか

◆うーん……
この数字が気になりますねえ。
すぐに大きな病院で
検査した方がいい。

◆紹介状を書きます
ベッドがあいたら すぐに
入院することになるでしょう。

No 13



◆えっ……!!

◆あんなに元気だったのに……

No 14



■病院に入院するなんて、はじめてだった。

■毎日、検査のれんぞくで、
ちょっとつらい。

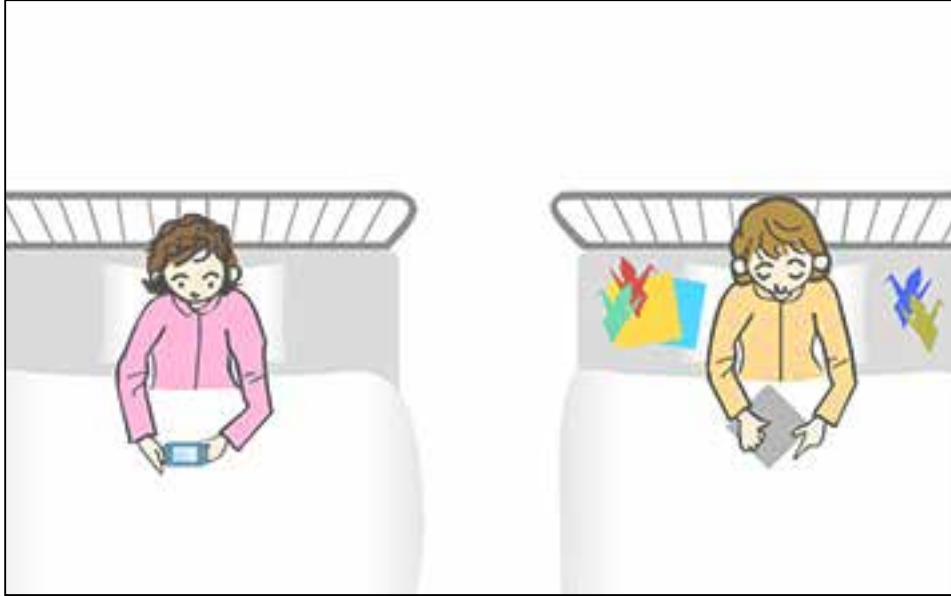
No 15



■弟がゲームを貸してくれた。
家にいるときは
ゼッタイに貸してくれなかったのに……

■ま、いいか。

No 16



■となりのベッドはキヨちゃんだ。

■キヨちゃんはいつも
鶴を折っているんだな——。

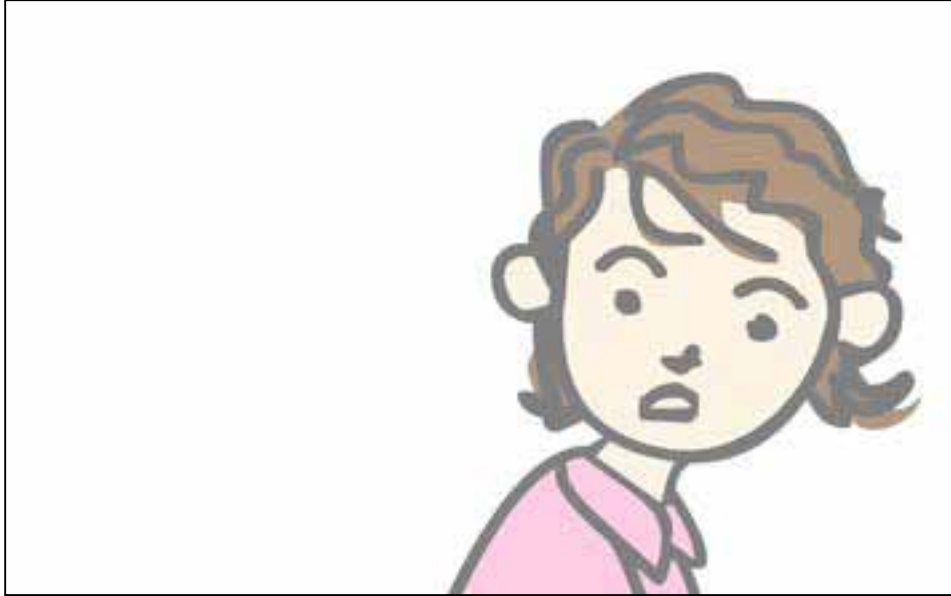
No 17



◆鶴を千羽折ると
病気が治るんだって。

◆サダコちゃんも、
いっしょに 折ろうよ。

No 18



■千羽鶴？ サダコ？

■なに？ これって。

■まるで、あの、佐々木禎子さんみたい。

No 19



■ウソ！

■わたしは白血病じゃないよね？

No 20



◆サダコちゃん、
はやく
よくなってね。



◆サダちゃんがないとリレーに
勝てないよ。

◆佐々木さんはあんなに
元気だったんだから、
すぐに よくなりますよ。

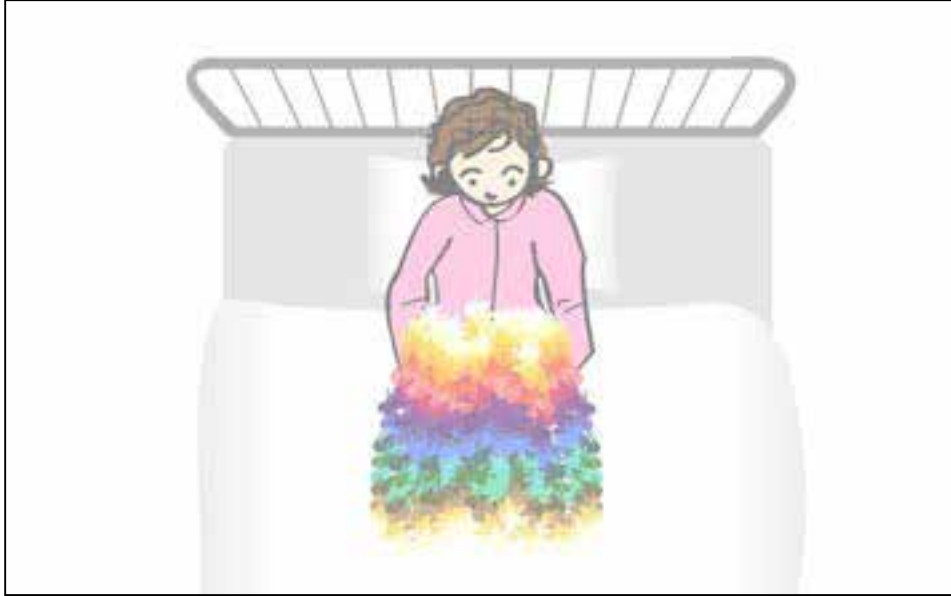
No 22



◆みんなで千羽鶴を
折ったんだよ。

◆きれいでしょ。

No 23



■あの日、
「原爆の子の像」の前から。

No 24



■なぜかわからないけど

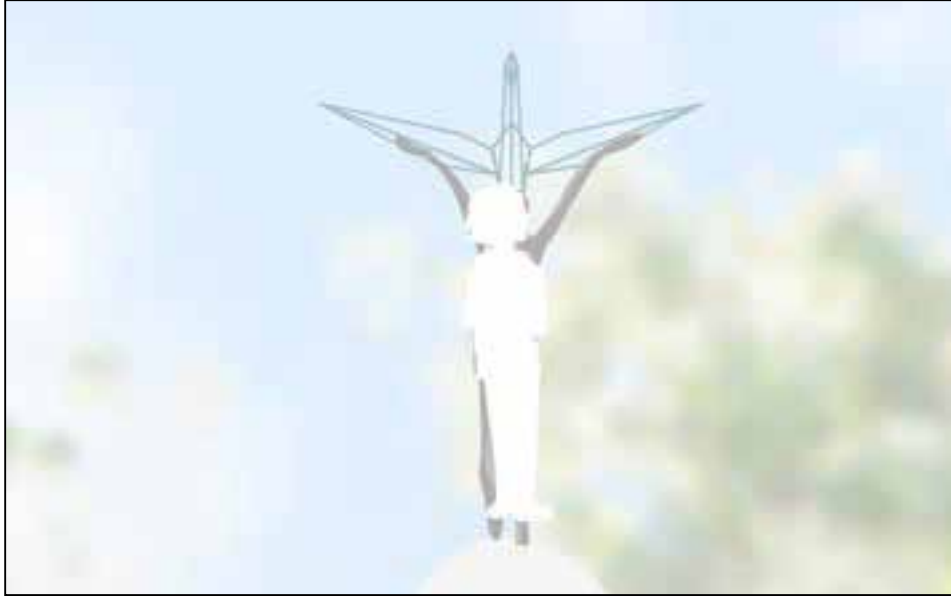
■あの日からわたしは、



■「佐々木禎子さん」と呼ばれる
ようになってしまった。

■そしたら、
もうすぐわたしは
千羽鶴を折りながら

No 26



■死んでしまうんだろうか。

■戦争とか、原爆とか、

■わたしにはぜんぜん

■関係ない、と思っていたのに！

No 27



■死にたくない！

■神さま、助けて!!



■それからわたしは、
佐々木禎子さんの本を 読みあさった。

■わたしと同じ12歳で、

■10年も前の原爆のために、
とつぜん病気になって
死んでしまった少女だ。

■禎子さんの話は
知ってるつもりだったけど
禎子さんの気持ちは
考えたこともなかった。

■なんとなく、本や映画の中の、
遠い話のような 気がしていた。



■「生きたい」

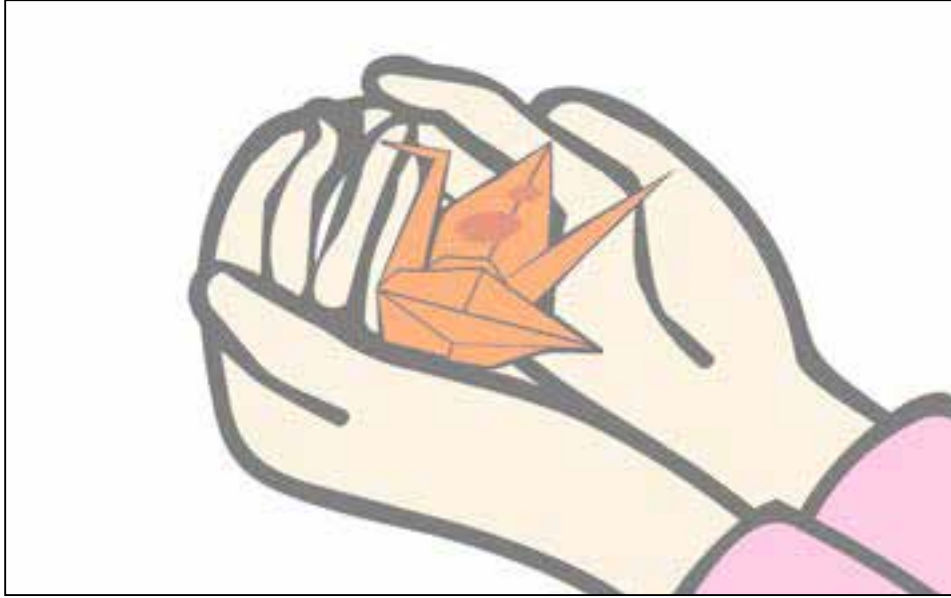
■禎子さんはそう祈って、
ツルを折ったにちがいない。

■今のわたしには、
禎子さんの気持ちが
いたいほどわかる。

■わたしは死にたくない

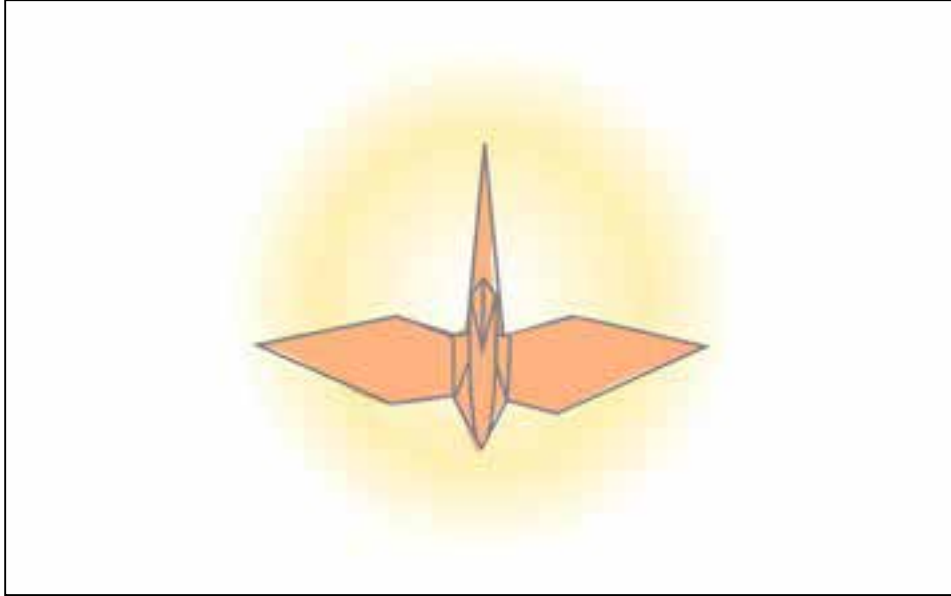
■わたしは死にたくない

No 30



■「サダコ、泣かないで」

No 31



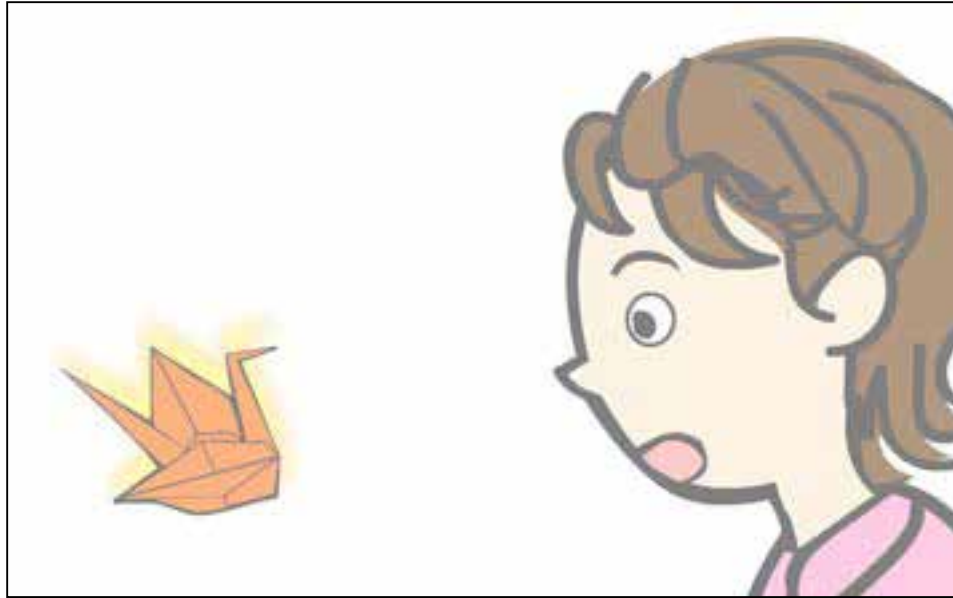
■「サダコ、泣いていてもダメ」

No 32



■「それよりも何かしなければ」

No 33



■しなければならいって……
何を……？

■「サダコ、ごらん」



■あの日も、

■広島の人たちにとって
いつものような朝、

■いつものような1日の
はじまりだったはずなんだ。

No 35



■ピカッ！！ ドーン！！

No 36



■お父さん! お母さん!

No 37



■広島に住んでいた人々の暮らしは
この一瞬からまったく変わった。

No 38



■おおぜいの人亡くなった。

No 39



■助かったけど

大やけどをしてしまった人、

家族を亡くしてしまった人、

No 40



■地獄のような光景を
目の中に焼きつけてしまった人……

■生きのこった人も
体と心にふかい傷をおった……



- この時、
佐々木禎子さんは2歳だった。
- 家の中にいたせいか、
禎子さんも、お母さんも、お兄さんも
無事だった。
- でも、被爆から10年もたってから、
禎子さんの体に
放射線の影響があらわれた。
- 白血病だ。



■2歳のときの原爆が、
小学校6年生になってから……

■そう、いまのサダコと同じ年齢だね。

■やっと、生きのびて
たのしい学校生活に希望をもっていたのに
かわいそうだよね……

■でも、サダコ。
原爆のせいで亡くなった子どもは、
禎子さんだけじゃない。

No 43



■学校でたくさんの子どもが、
先生といっしょに亡くなった。

No 44



■ 誰にも知られず、
がれきの下に埋もれて
死んでしまった子どもも
いっぱいいたはずだ。

No 45



■75年以上たった
今でも、
原爆による障害で
苦しんでいる人が
たくさんいるんだよ……



■……………！

■今だって、
たくさん子どもたちが
戦争の犠牲になっている。

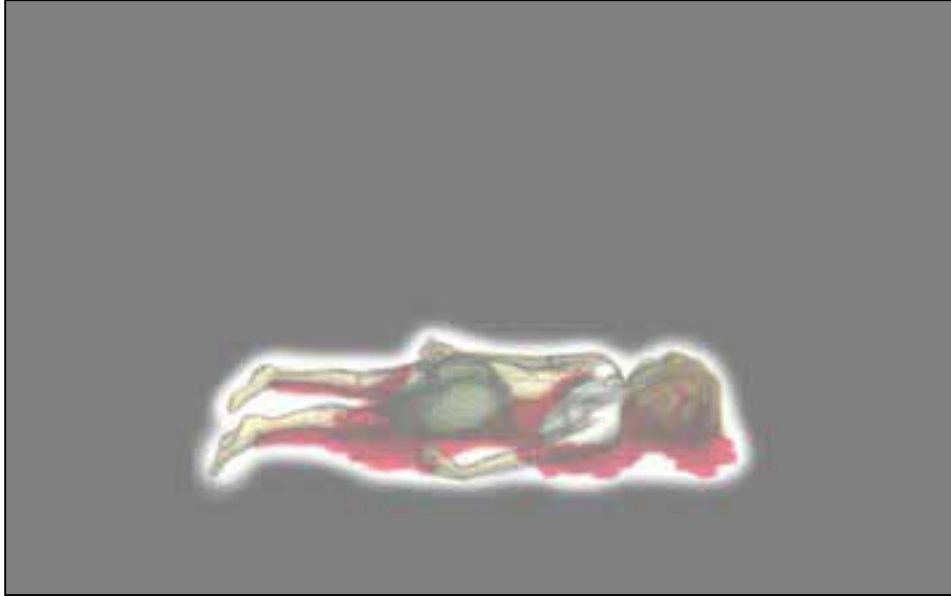
■ごらん、サダコ。

No 47



■サダコが学校で
友だちと遊んでいるとき、

No 48



■戦争で亡くなっていく
子どもがいる。

■それだけじゃない。

■戦争で
勝ち残ることをめざして、
核兵器の研究を
進めている国もある。

No 49



■ どうして？

■ みんな、原爆の恐ろしさを知っているのに？



■知っているから、
おどしとして、
強い力を持ちたい
と思うのかもしれないね。

■もし、また、
戦争で核兵器が使われたら

■どうなるんだろう……

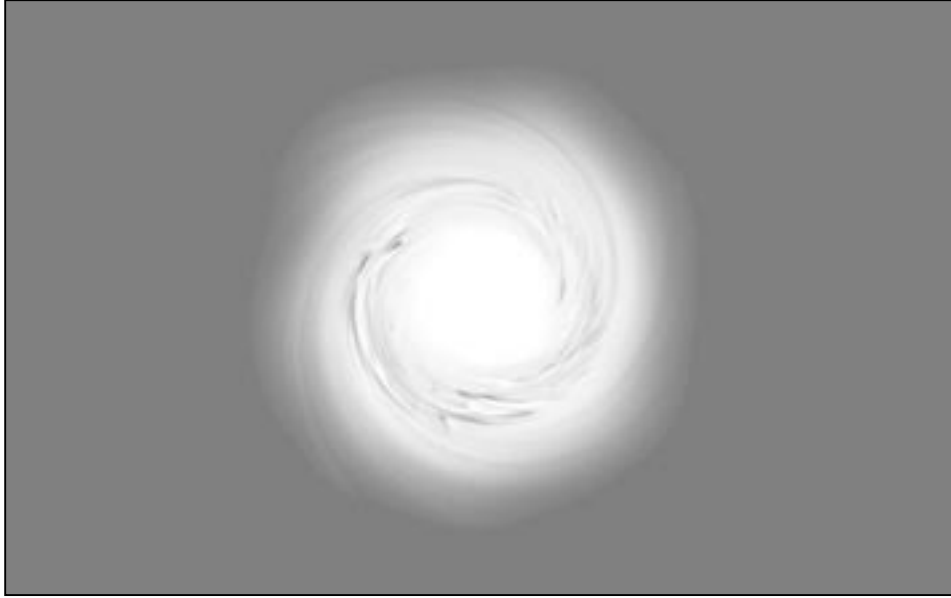
■原子爆弾の何千倍の
威力を持った水素爆弾や、
放射線を強化した中性子爆弾……

No 51



■もし、戦争で
核兵器が使われることがあったら

No 52



■地球そのものが
おしまいになって
しまうかもしれない……

■ダメ！

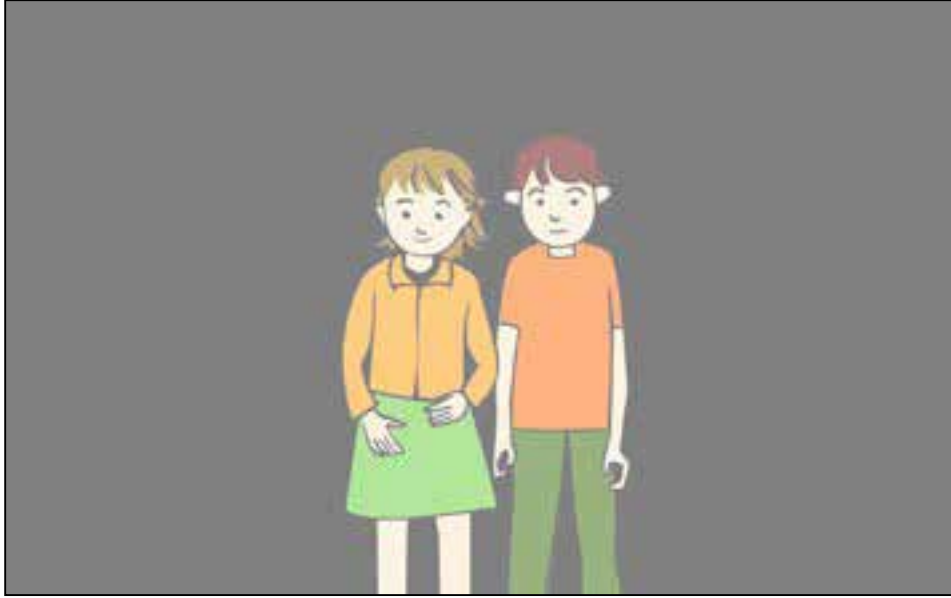
■そんなことになったら
みんな死んじゃう！

No 53



■お父さんも、お母さんも、弟も、

No 54



■ミホちゃんも、アキラくんも……

■みんな、死にたくない！

No 55

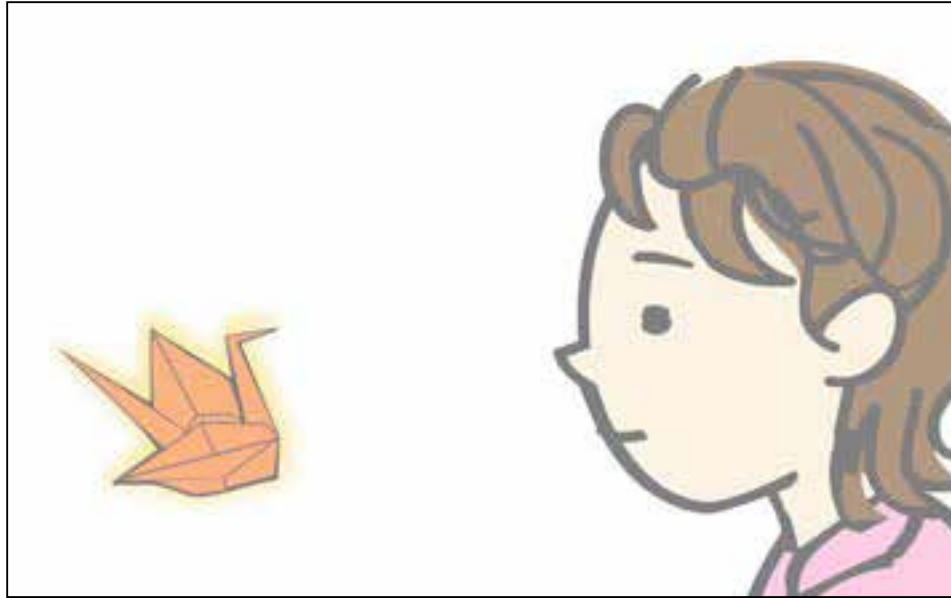


■わたしだって、死にたくない……！



■みんなが幸せに
生きていけるよう、
『戦争が起こらないことを願って』
千羽鶴を折ろう。

■禎子さんだって、
自分の病気が戦争のせいだと
知ってたら
そう願って折ったと思うよ……



■サダコ。

■『戦争が起こらないことを願って』
ではなく、

■『戦争を起こさないように』
じゃないかな？

■えっ…… だって……

■わたしには、
戦争を起こさないように
止める力なんてないもの……

■サダコ。それはちがうよ。

■どうして？



- 世界中の人が
『核兵器はいらない！
戦争をなくそう！』
と強い意志を持ったら、
- それが戦争を抑える力になっていく……

No 59



■わたし、生きたい！

■生きて、
戦争を起こさない
力になりたい！

No 60



◆サダコちゃん、
先生の回診ですよ。

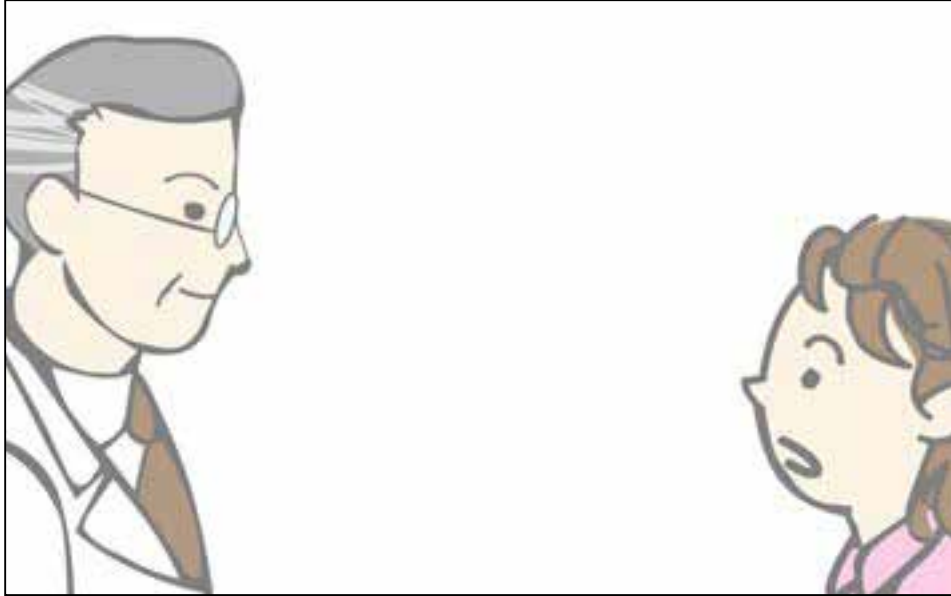
No 61



◆ずいぶん
よくなってきたね。

◆来週には
退院してもいいだろう。

■えっ……？



◆先生、
わたしは白血病で
助からないんじゃないの？

◆誰がそんなことを言ったの？

◆いろいろ
検査をしたけど、大丈夫です。

◆数字もよくなってきたし。



■ どうして……？

■ わたしは佐々木禎子さん
じゃなかったの？

■ じゃあ、
どうしてサダコになってしまったの？

■ どうなってるんだろう？

■ ……わからない……

No 64



■わたしはだれ？

No 65



No 66



■わたしはだれ？

◆えっ？ アユミちゃん？

■ぼくはだれ？

◆あっ、アキラくん



◆ああよかった！ ボク、アキラにもどったんだ！

◆わたしさっきまで“サダコ”って呼ばれていたの！

◆えっ、わたしも！

でも、アユミちゃんも アキラくんも、
わたしのこと“サダコ”って呼んでたよ。

◆マイちゃんだって “サダコ”って呼んだよ。

◆みんなそれぞれに “サダコ”だったんだ！！

No 68



◆でも……

◆入院して、
千羽鶴を折って いたよね

No 69



◆生きたい、って、
必死だったよね。

◆ツルに会ったよね。



©UNICEF/833/Said Elatab

■1年間に
1万2000人以上の子どもたちが、
戦争や紛争のために
命を落としたりけがをしたりしてるんだ……

(2018年のデータ/ユニセフHPより)



■わたしたちは
平和にくらしているけど

■世界には今も戦争のために死んでいる
子どもたちがいることを
3人は知った。



◆どうして今まで
気づかなかったんだろう。
ボク、いろいろな人に
ボクが知ったことを伝えようと思う。

◆そうだね。
それから はじめようよ。



■そして、
世界中の人がサダコのことを知ったら

■世界中の人が核兵器はいらないって思ったら、

■本当に平和な世界が築ける……よね

No 74



■サダコの願いは
マイちゃんたちがうけついでくれたよ……

■おしまい